

「 border 考 」 ～境界線のあたり～

皆さんの、家のまわりや、設計・施工される境界線のあたり（border）はどんな風ですか？
写真は私の三重県の実家の境界の写真です。

南側：ほどよい高さの化粧リブブロック塀（笠木あり）と植栽、砂利敷

北側：ブロック積（笠木なし）とアルミフェンス、碎石敷

南側の隣地は３５年来の知り合いが住む家で、塀は経年変化で黒ずみ、植栽は父の植えたものなどがあります（紅葉もする）。南塀の笠木の上には、お隣さんから夕食のおすそ分けの天ぷらなどが乗ることもあり、肩から上の部分は塀の上に出るので、顔を見合わせ、会話も生まれています。玄関へ回ることなく、このあたりでのやりとりで全て済みます。一方、北のフェンスは対称的で、５年ほど前に建った隣家と共にフェンスが整備されました。なんの意識もなく整備される境界はどこもこんな感じでしょう。けっこう通る通路にはなっているのに会話が生まれることはありません（関係は悪くない）。



とくに再発見でもなく当たり前のことでしょうが、家も大切ですが気になる境界のあたりも、設計で意識してつくる必要を強く感じます。道路からの見え方（まちの景観）や、お隣さんとの関係づくりに寄与できる境界かどうか。不思議なのは開放性があることが、会話を促すことにはならないこと。ほどよい閉鎖性や囲まれた感じ、チラチラ見えるなどの雰囲気づくりが出来れば、そこに人を近づけ、とどまらせ、会話を生むと思います。玄関に回らなくていい機能性まで備えた素敵な境界のあたりが増えることが普通の景観をよくする第一歩だと思います。

愛知支部 黒野 晶大